

石 すとーん・さーくる

No.87

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2014年3月20日 発行

事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>

石 仏 散 歩

不思議な石

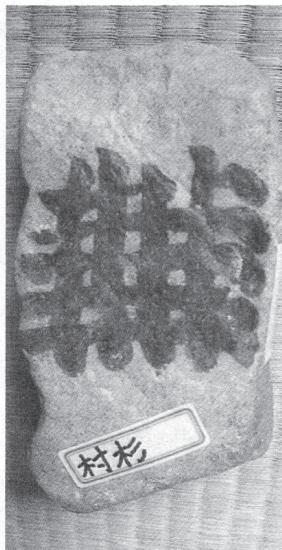
新潟市 大木 稔爾

実家の土蔵を整理していたら、不思議なものが出できました。祖父が集めたらしいのですが、長さ約20cmの石に墨で何やら書いてあります(写真A、B)。Aは「九字」のようです。修験が山に入る時、魔除けのために切るといいます。

写真Cは、新潟市南区馬場屋敷遺跡で出土した木簡(新潟市埋文センター蔵)です。上部に



写真B (梵字?石)



写真A (九字石)

九字、その下に急急如律令、南無大日如来、南無蘇民将来子孫、など呪文を書き、上端と下端に釘穴があるので門口に打ち付けたようです。写真Bは梵字のように見えなくもないですが、よくわかりません。ラベルに「村杉」とあるので、阿賀野市出湯の川上貞雄氏を訪ねご教示を乞い、非常に示唆に富む資料をお借りしました。

佐藤千秋氏「古里はなつかし」(『五頭郷土文化』六号)に、「村杉とは、昔から村の中に大杉が並木となつて並んでいることから名付けられた村の名であると思われる。私の子供の頃角七旅館の玄関前に立つていた二股の木が切られた。その木の下から、川石のツルツルした子供の手位の石に墨で面白い字のようなものが書かれたものが二つ出てきた。父は、これはボン字だと教えてくれた」。また『五頭郷土文化』十一号に前田伊勢松氏が「この老杉の並木は惜しいことに昭和三十一年八月の第二室戸台風でおおかた倒れてしまった。昔からこの老杉の倒れた下を掘ると梵字や九字の符を書いた石が出てくると言っていた」と記し、関連が気になります。



写真C

新潟地区 春の石仏探訪会報告

新潟市 大木禊爾

五月二十四日（金）田上町東龍寺駐車場九時半集合、田上町の石仏を探訪した。東龍寺大杉前に見慣れない板碑がある。丸い窪みにキリーケ、年代不詳。（写真1）



写真1



写真2

本堂裏の靈園に護摩堂城主の墓塔がある。護摩堂城主平賀宝山の墓と伝える。現在の塔は江戸初期のものとみられ、五輪塔の残欠を寄せ集めて組み直したもの

と思われる。塔の傍から北宋の古銭も発見され、歴史のロマンをそそる。（写真2）ほかに宝曆十三年造立の回国供養塔がある。

円福院にはキンカ様という花崗岩製の石仏がある。摩耗して像容は不明であるが阿弥陀如来といわれている。中世の阿賀北の石仏とみられるが、キンカ様と通称されてきたのは、道祖神として耳疾の治療を祈つたものであろうか。

下吉田になんとも素朴なタッチの青面金剛像がある。左手は輪宝に懸索、右手は宝棒に蛇がからまつたものだろうか、寛保二歳とある。（写真3）



写真3

定福寺の萬靈供養塔には六地蔵が浮彫されている。仏の功德力によって死者の生前の罪業が清められ成仏するよう祈る。（前）有縁無縁三界兩靈等

（右）元禄十歳願主若衆丑八月一八日



写真5



写真4

奉建立行介戊（写真4）
湯川の五社神社には一六基の石祠がある。湯殿山、稻荷、妙見、諏訪、八幡、大山神、弁財、十二神、六所社などが祀られている。田上の民俗信仰の神々の代表がここに集合されたような石祠群。五社神社とは、日本全国に存在せる神社の名称である。社名は五柱の神を祀るという意味で、何等かの理由により五社を統合した神社や、元々一社に五柱の神が祀られている神社につけられている。境内に不思議な石がある。「さやのあと」と刻む（写真5）

鮮やかに 道祖神のお色直し

—穂高の彩色道祖神祭り 見学会報告—

柏崎市 渡邊三四一

昨年秋に穂高を訪れたのは、安曇野市穂高郷土博物館で開催の道祖神展見学を主な目的にしていた。その折、ご案内頂いた地元の石田益雄先生や宮本尚子学芸員から、毎年二月初めにある彩色道祖神祭りにもお出かけをと、お誘いを受けた。帰りの車中で確認すると、大半がぜひ行きたいという。こうして新年早々の有志見学会は実施された。



ハナづくりに専念する参加者



色塗りをする子どもたち



色直しを終えて



英気を養う。

村の子供たちによつて色塗りが行われるのは、穂高郊外の田中集落。集落センターを訪ねると、小学一年から六年生二十名ほどが手分けして作業をしている。低学年は各戸に配るハナと呼ぶ厄除けの造花づくり。高学年は書初めよろしく「道祖神」「家内安全」「無病息災」を筆で記し、木枠に貼つて道祖神に奉納する。

ところでハナは、マサキの枝に色紙で作った花を取り付けるのだが、集落二百戸分をこしらえるので、しばらくすると低学年は飽きてくる。そこで私たち観客にお手伝いのお鉢が回ってきた。幸いにも地域の伝統行事にどっぷり参加する機会を得たのである。孫のような子供らと

和氣藹々と作ったハナは、地元の方にも好評で、記念の集合写真まで頂いた。

道祖神の色塗りを楽しく見終えた別れ際、子供たちの親から「来年もぜひ」と熱いご招待を受けた。これにどう答えるかは今後の課題とし、再びご案内頂いた石田・宮本両先生に深く感謝申上げます。

事務局だより

いよいよ新年度の活動が開始されます。新年度から入会される大勢の新会員の皆様も含め、振るつてご参加頂きますようお願いします。

■上越地区見学会のお知らせ

期日 5月5日（祝）
概容 金谷薬師（国指定重要文化財）
ご開帳に合わせ、金谷山一帯の

石造文化財、滝寺の不動明王、灰塚の大日如来等を巡ります。

集合 ①JR直江津駅南口 9時45分
(特急北越2号接続)

②金谷山駐車場 10時

（日本スキーフェスティバル記念資料館
前／上越市大貫1453-1）

解散 ①金谷山駐車場 14時45分
②JR直江津駅 15時15分
(特急北越5号接続)

参加費 3,500円（資料代・昼食代・車両代他）
28名以内（受付順）

申込先 上越地区事務局 やまだ漫歩
090-4621-4149
(SMS可)

■新潟地区見学会のお知らせ

期日 5月22日（木）

テーマ 三國街道中通りをあるく新津編
探訪地 普談寺 妙蓮寺その他
詳細検討中

新潟県立植物園エントランス広場入口に9時30分。電車の方は信越本線古津駅下車、迎えに行きます。

集合 参加費 1,000円（昼食代別）
定員 15名
申込み 新潟地区事務局 大木禪爾
0256-72-6913

■平成26年度総会のお知らせ（概報）

日時 5月11日（日）

①瞽女唄公演（10時～12時）
出演 葛の葉会 横川恵子氏
同 金川真美子氏

■『石仏ふおーらむ11号』の原稿募集
会誌編集委員会では、ただ今『石仏ふおーらむ11号』の編集作業を行っています。若干紙面に余裕がありますので、急遽小報告などを募集します。ご投稿頂ける方は、至急左記担当までご連絡下さい。

会誌編集委員会 池田孝博
090-3512-2863

②総会（13時～16時）
③懇親会（17時～・別会場）

会場 長岡市中央図書館・講堂

※詳細は後日往復はがきでお知らせ致します。ご予定にお入れ下さい。

■星野会長が日本石仏協会総会で講話

去る2月22日（土）、星野紀子会長が

今年は午年です。駿馬のようにかけまわるのは無理でも馬頭観音めぐりなどはいかがでしょうか。
（大木）

編集後記

まわるのは無理でも馬頭観音めぐりなどはいかがでしょうか。